

質保証が支える東アジアの大学間交流  
Understanding QA Mechanism, Empowering HE Exchange in East Asia

**セッション（１）（２）発表要旨集**

**Abstracts of presentations in Sessions I & II**

**NIAD-UE国際セミナー**  
「質保証が支える東アジアの大学間交流」

「日本の高等教育における公的質保証システム  
～大学評価・学位授与機構の行う認証評価～」

大学評価・学位授与機構 研究開発部評価研究主幹  
**鈴木 賢次郎**

学校教育法第109条に定められる「認証評価」は、大学がその教育研究等の状況について「自ら点検及び評価」することと、認証評価機関による評価を受けることを謳っている。すなわち、大学は、第一義的には大学自身の手によりその質が保証されるべきであり、また大学の質保証を支える公的なシステムの中に、認証評価が位置づけられている。

大学評価・学位授与機構は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関として、大学等の認証評価を行っている。この認証評価は、大学の教育研究活動等の質を保証し、改善に貢献しており、同時にその状況を社会へ説明するためのツールとしても活用されている。

現在、この認証評価は第2サイクルに入っており、ここで用いられる基準は、大学評価の国際的動向及び第1サイクルの検証等を踏まえて改良されたものである。今回は、新しい評価基準を中心に、機構の行う大学の認証評価について紹介する。

また、機構では大学機関別選択評価を行っている。これは、認証評価とは別に、大学の個別の機能に着目した評価である。その中でも特に、平成25年度から新たに始まる、選択評価事項C「教育の国際化の状況」の概要について紹介する。

## **NIAD-UE International Seminar**

Understanding QA Mechanism, Empowering HE Exchange in East Asia

### ***The National Quality Assurance System in Japanese Higher Education: 'Certified Evaluation and Accreditation by NIAD-UE'***

**Prof. Kenjiro Suzuki**

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation,  
Professor and Director, Research Department

Certified evaluation and accreditation (CEA) is stipulated in the Article 109 of the School Education Law, where it is specified a university's obligation to "assess, (and) evaluate... its own education and research activities" as well as to be assessed by a certified evaluation and accreditation organization. A university has the primary responsibility for quality assurance of its educational provision, whereas CEA is placed in a national system to assure the quality of higher education.

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation (NIAD-UE) is an organization conducting CEA, certified by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology. CEA assures the quality of education and research activities in a higher education institution, contributes to its quality improvement and fulfills accountability of a university to the general public.

NIAD-UE's CEA has just entered in its 2<sup>nd</sup> cycle, where revised standards are employed following the verification of the 1<sup>st</sup> cycle outcomes. This presentation will outline NIAD-UE's CEA by clarifying the new standards for evaluation and accreditation.

NIAD-UE additionally carries out institutional thematic assessments (ITAs). ITAs focus on individual activities in an institution by respective themes and they are separately conducted from CEA at request of the institution. The presentation will give a brief overview of ITAs, especially with regard to the ITA C: "internationalization for higher education", which is to be introduced in 2013.

**NIAD-UE国際セミナー**  
「質保証が支える東アジアの大学間交流」

「韓国における高等教育の質保証」

韓国大学教育協議会大学評価院長  
仁済大学校教授  
ソ・ミンウォン

本発表は、韓国大学教育協議会（KCUE）が行う大学機関別評価認証を中心に行う。特に、実際に KCUE の評価認証を受ける韓国の大学に対して、評価専門家が行う説明と同じ論点を用いる。例えば、各評価項目の内容、必須評価項目を満たすための条件、自己評価報告書の取りまとめ方等が挙げられる。この発表により、KCUE の評価認証の内容と実施方法についての見識が得られるだろう。今回は内容だけでなく発表方法も、韓国大学評価院（KUAI）の専門家が、韓国の高等教育関係者に対して行うプレゼンテーションと同じスタイルである。さらに、韓国における大学評価の新たな試みとして、「産業界との連携」を取り上げる。

## **NIAD-UE International Seminar**

Understanding QA Mechanism, Empowering HE Exchange in East Asia

### ***Quality Assurance of Higher Education in South Korea***

**Dr. Min-Won Seo**

President, Korean University Accreditation Institute(KUAI), KCUE  
Professor, Inje University

The core contents is the university institutional accreditation implemented by KCUE. Dr. Seo's presentation covers what accreditation specialists focus on when they usually explain the institutional accreditation to Korean universities which undertake KCUE's accreditation. Dr. Seo's presentation especially include specific details of evaluation criteria, minimum requirements of mandatory evaluation criteria, and how to compile a self-assessment report, and so on. The information will gives tips about contents and way of presentation. Dr. Seo deals with what specialists of Korean University Accreditation Institute(KUAI) make a presentation in the same way and contents as they present to higher education officials in Korea. Also, The paper includes "industry perspective" as a new approach to University evaluation in Korea.

**NIAD-UE国際セミナー**  
「質保証が支える東アジアの大学間交流」

内部質保証システムの構築に向けて  
－神戸大学の事例－

神戸大学大学教育推進機構教授  
**川嶋 太津夫**

神戸大学は、11学部、13研究科を擁する国立総合大学であり、学士課程には約11000名、専門職大学院課程を含む大学院課程には約5000名が学んでいる。また、学長以下教員は約1500名、付属病院の看護師を含めた職員は約2000名が、日々教育・研究・医療に従事している。

2006年4月に国立大学には法人化され、制度上、大学の基本的な方針や中期目標・計画等は、法人の長である学長が理事の補佐を受けながら最終的な決定を行う。しかし、実際には、教育研究を担うのは各学部・研究科であるため、部局長会議などを通じて合意形成を行った上で、様々な意思決定がなされることになっている。

このようなプロセスを得て決められた方針や計画に従って、各部局で教育研究が実施されているか、その点検・評価を行う機関として学長を議長とし、各部局長を構成員とする神戸大学評価委員会が設置されている。しかし、法人化にあたって策定された「神戸大学の評価に関する基本的な考え方」に基づき、神戸大学評価委員会は、各部局で実施した自己点検・評価が妥当であるかの判断を行うこととしており、実際に、各部局の教育研究にかかる状況を直接評価することはない（メタ評価）。

ところで、今日高等教育の質保証は、主として「教育」の水準と質保証が焦点となっている。神戸大学では、平成22（2010）年4月に体制整備を行い、学士課程のみならず修士・専門職・博士課程をも含む神戸大学の教育全般について審議、決定する機関として大学教育推進機構に各部局の教育担当評議員（副研究科長）を構成員とする大学教育推進機構を発足させた。機構には、企画立案を担う大学教育推進部、学士課程の教養教育を担う共通教育部、研究調査を行う大学教育支援研究推進室が置かれている。教育にかかる基本的な方針は、大学教育推進部で企画立案された後、大学教育推進委員会において全学的な見地から審議、決定され、そこで決定された方針に従って、各学部、研究科において教育が実施されている。

教育の質保証と改善に責任を持つのは、大学教育推進委員会のもとに設置された全学評価・FD委員会である。本委員会では、大学教育推進委員会で定めた「教育の質向上のための評価指標」に基づき、各学部・研究科の教育の状況に関して定期的な点検を促すとともに、学生の学修成果の把握については、企画評価室と大学教育支援研究

推進室の支援を受けながら、新入生、卒業・修了時、卒業・修了者および企業等のステークホルダーからの意見聴取を定期的実施し、その結果は全学評価・FD委員会で報告、共有されるとともに、「教育の質向上のための評価指標」に基づき、教育の実施組織である各部局において分析・検討され、必要な改善措置をとることになっている。

また、国立大学法人評価（教育関係）と認証評価などの第三者評価にかかる自己評価書の素案作成は、関係事務部署の支援を受けて、全学評価・FD委員会が行うことが、神戸大学評価委員会および教育研究評議会で審議、了承された。

このように、神戸大学では、教育活動に関する企画立案(PLAN)、実施(DO)、点検・評価(CHECK)、改善(ACTION)を循環させる教育の内部質保証の仕組みは構築され、軌道に乗っているかに見えるが、問題がない訳ではない。

一つは、自己点検・評価が第三者評価への「対応」にとどまり、目的化しているくらいがある。点検・評価に主体的に取り組むためには、データ収集の負担を軽減し、教育プログラムごとの責任体制を確立する必要がある。現在は、学部・研究科が教育のみならず研究も担当しており、教育の責任体制が必ずしも十分に担保されているとは言いがたい。今後は、学位ごとの教育プログラムを確立し、定期的な「プログラム・レビュー」を実施できる体制への移行が必要である。

次に、近年の学修成果への関心が国際的にも高まる中、日本でも国立大学法人評価や認証評価に置いて学修成果の挙証が求められている。神戸大学では、すでに数年にわたって様々な調査を行ってきたが、依然として主たるツールはアンケートなどの間接的なアセスメントにとどまっている。今後、学修成果の直接的なアセスメント開発に向けて、他大学等との連携を強めたい。

最後に、教育の企画立案体制が確立されたとはいえ、教育プログラム（学科、コース等）の新設、改廃については、学部・研究科教授会の専権事項である。また、共通教育を含む各教育プログラムにおける授業科目の改廃、新規開設についても、担当教員の裁量に任されている。新しい教育プログラムが、神戸大学の保証する学位の水準と質を満たしているか、新しい授業科目の内容が、教育プログラムの教育目標と整合性を持っているかなど、今後学位授与機関としての自主的な内部質保証の仕組みを構築する必要がある。現状は、ようやく海外大学とのダブル・ディグリー・プログラムを開設する際に、大学教育推進委員会で審議する試みが始まったばかりである。

## **NIAD-UE International Seminar**

### Understanding QA Mechanism, Empowering HE Exchange in East Asia

Building an Internal Quality Assurance System at Kobe University

**Prof. Tatsuo Kawashima**

Professor, Institute of Promotion of Higher Education, Kobe University

Kobe University is a comprehensive university with 11 undergraduate schools and 13 postgraduate and professional schools in the fields of humanities, social sciences, natural sciences and medical and life sciences. Undergraduate programs enroll about 11,000 students and postgraduate and professional programs do around 5,000 students with 3,500 staff.

As the national university corporation, the President with Board members makes all policies and such plans as the mid-term plan and the annual plan in theory. In practice, however, prior to final decision, the President consults most matters to the deans of all faculties to reach the consensus. Then each faculty implements policies and plans accordingly.

In order to assure the policies and plans are implemented rightly, each faculty produces self-study report and submit it to “University Evaluation Committee (UEC)” which consists of all senior professors such as the President, vice-presidents, and deans. UEC checks the validity of each self-study report with the assistance of the planning division.

For assuring and maintaining of the quality of teaching and learning, the University-wide Committee for Evaluation and Faculty Development, which reports to the Committee of Promotion of University Education that oversees all degree programs, is monitoring and reviewing regularly using many surveys for assessment at freshman, senior alum and employers.

However, the instruments for assessment are still indirect measures. We need to develop some direct measures of student learning. In addition, the concept of program review is still unfamiliar and faculty seem not to be interested in assessment.



**NIAD-UE国際セミナー**  
「質保証が支える東アジアの大学間交流」

「韓国嶺南大学校における内部質保証の取組み」

韓国嶺南大学校大学自体評価委員長・師範大学教育学科教授  
国家教育科学技術諮問会議首席専門委員  
**キム・ビョンジュ**

1. 自己評価の背景と方法

2008年、自己評価は2年毎に実施されることが法律で定められた。そして、その評価結果は機関別評価認証で活用されることとなっている。

自己評価で用いる情報の一部は、韓国大学教育協議会（KCUE）の高等教育情報公示サービスを通して、一般に公開されている。

2. 嶺南大学校における自己評価

嶺南大学校の自己評価における評価指標は次のとおりである。

全学レベルの評価： 7領域（教育、研究、社会貢献、財務、キャンパス、  
大学構成員）

学部・学科ごとの評価： 4領域（運営・改善状況、教育、研究、国際化）

事務部門の評価： 3領域（各事務部門共通の指標、戦略、固有の業務）

嶺南大学校は2009年に全学の自己評価を実施するとともに、翌2010年に学部・研究科ごとの自己評価を実施、さらに、事務部門の自己評価に向けた準備を行った。2011年には、全学自己評価が本格化し、2012年には、学部・学科ごと、事務部門を含めたすべての自己評価が本格化する。

3. 嶺南大学校の自己評価結果の活用と今後

嶺南大学校は全学自己評価の結果を、教職員や学生における大学の現状認識の向上や、大学発展計画の実現化のための確認、大学の競争力強化、運営改善のための基礎データの集積として活用している。一方、学部・研究科ごとの評価の結果においても、15%を上限に各学部等への予算配分に反映させるほか、教員へのインセンティブ算定にも用いている。また、事務部門の評価の結果は、職員のインセンティブに反映されている。

また今後は、自己評価の範囲を段階的に広げるとともに、アウトカム管理システムや管理情報システム（MIS）等のコンピューティングシステムを構築・定着化させていく。また、評価指標の妥当性についても引き続き検証していくこととしている。

## **NIAD-UE International Seminar**

### **Understanding QA Mechanism, Empowering HE Exchange in East Asia**

#### ***Internal Quality Assurance in Yeungnam University of Korea***

**Byoungjoo Kim**

Chairman of University Self Evaluation Committee,  
Professor(Former Dean) of College of Education, Yeungnam University;  
Special Expert Member, Presidential Advisory Committee for Education, Science, and  
Technology

#### **1. Background and Purpose of Self-Review**

Self evaluation, self-review have been required by law every two years since 2008. Results from the biennial self-reviews are utilized in the institutional accreditation process.

Select information used in self-reviews are also made available to the public through KCUE's Higher Education Transparency Service.

#### **2. Self-Review fo YU**

Evaluation Indicators for YU Self-Review are as follows: seven areas (education, research, public service, administration, finance, campus, and members) for institutional evaluation, four 4 areas (management and development, education, research, and globalization) for academic departmental evaluation, and three areas (common, strategy, and indigenous affairs) for administrative departmental evaluation.

YU reported institutional self-evaluation and preliminary announced academic departmental evaluation in 2009, settled down institutional self evaluation and introduced academic departmental evaluation and preliminary announced administrative departmental evaluation in 2010, fixed institutional self evaluation, settled down academic departmental evaluation, and introduced administrative departmental evaluation in 2011, and fixed all self review in 2012.

#### **3. Utilization and Future Direction of YU Self-Review Results**

YU utilize the results of institutional self-evaluation to increasing awareness of professors, staffs, and students about present conditions of YU, to evaluate data for actualization of Development Plan, to strengthen competitive power of YU, and to accumulate basic data for management and development of YU. YU utilize the results of academic departmental evaluation to distribute academic departmental budget within the limits of 15% and to reflect merit pay of professors. The results of administrative departmental evaluation is used to reflect merit pay of administrative staffs.

The scope of self-review should be extended gradually, computing system such as Outcome Management System and Management Information System(MIS) should be stabilized, and the validity of evaluation indicators should be developed and verified continually.